

創立72周年
令和4年度 5月号



咲かせよう大正の花

つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



端午の節句

園長 北村 恵

園庭にこいのぼりを飾ると子供たちは大喜び。風になびくこいのぼりと一緒に、空を見上げる機会が多くなりました。先日もぱんだ組の子供たちが、飛行機が空に描いた「にこちゃんマーク」をタイミングよく見付けて知らせてくれたので、みんなで見ることができました。後で調べたところ、エアレースパイロットの室屋義秀選手が「大空を見上げよう」という思いで行ったイベントだったようです。

5月5日はこどもの日、別名端午の節句です。こいのぼりや兜を飾り、柏餅を食べたり菖蒲湯に入ったりするのが習わしですが、先日読んだ紙芝居に、子供の日の由来が書いてありました。江戸時代、端午の節句は武士の家でのお祝いで、こいのぼりではなくのぼり旗を飾っていたそうです。武士だけでなく町人でもお祝いできるようにと、のぼり旗の代わりに生命力の強い鯉を飾ることを考案した人がいて、それが現在のこいのぼりに繋がっているそうです。鯉の滝登りという言葉があるように、鯉が急流を遡り、竜門という滝を上ると竜になって天に上るという中国の伝説にもちなんでいるそうです。(登竜門という言葉の由来でもあります)

また、柏餅を食べるのは、柏の葉の香りが強く、その香りが厄除けになるという理由があるそうです。菖蒲湯に使う菖蒲の葉も強い香りがありますね。これも体に悪い気が付くのを防ぐという意味があるそうです。大正幼稚園でも、5月2日はみんなで柏餅を食べる予定にしています。柏餅を食べ、みんなが身体も心も健康に、無事に1年間過ごせることを願いたいと思います。

今、各学級では発達に応じたこいのぼり作りが始まっています。うさぎ組は上質紙にシールを貼ったり、色を塗ったりして、出来上がったものをすぐに持って遊んでいます。自分で作ったもので遊ぶ楽しさを感じられることをねらいにしているので、簡単に取り組みやすくできあがる物になっています。ぱんだ組は、はさみや糊を使い、真鯉、緋鯉と一つずつ丁寧に作っています。はさみで長く直線を切ることや、糊をウロコの全面に付けて貼る経験をねらいにしています。少し難しいことにもチャレンジできるようになっているぱんだ組は、先生の話聞きながらじっくり取り組んでいます。

ぞう組は、初めてのグループ活動で、友達と簡単な相談をして、こいのぼりの色やウロコの形を決めて作っていきます。「僕は赤がいい！」「私は黄色！」と思いが食い違うこともあります。友達と一緒に作るためには、自分の考えにこだわるのではなく、時には譲ることも必要だという経験をしています。一人で作るのは大変な大きなこいのぼりも、友達と一緒にならばできるということを感じてくれることでしょう。ぞう組のこいのぼりが園庭で元気に泳ぐのももうすぐです。